千島連盟別海町支部・青年部通信　№55

2011(平成 23).11.24 発行

ご挨拶

冷え込んでまいりました。何かと忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

このたび「北方領土を語る会」（連盟・外務省事業）派遣という機会をいただき、萬屋努連盟副理事長、堀江則男釧路支部青年部長と私３名で９月 18～23 日モスクワを訪問いたしました。

当初 3 月の予定が東日本大震災などの影響により延期になっていたものです。

三名の訪問でしたが、北方四島に住んでいた日本人島民として、報道機関や国家院議員と面談し、占領された事実を明確に伝え当時の思いや現在の気持ちをうったえてまいりました。

ロシア外務省との面談も希望していたところ、なかなか叶わず再三の要請でようやく最終日に実現しましたが、質問も許されない厳しい面談となりました。

9/12 水沼町長表敬

帰国直後の 24 日、現大統領が次期大統領選を辞退しプーチン氏復帰が決着と報じられましたが、世界が民主化に動いている今、日本政府にはロシア世論にも働きかけ外交力を発揮しこの状況を打開してほしいと願わずいられません。（派遣報告は後に掲載）

最後に悲しいお報せですが、8 月以降役員の不幸が続きました。―略―ともに支部運営を担ってこられた方々を失くし残念でなりません。長年のご尽力に感謝申し上げ心よりご冥福をお祈り申し上げます。

12 月 1 日東京で行なわれる「北方領土返還要求行動アピール行進」（北隣協主催）には、支部から村上理事、上月理事、荒木青年部理事と私の４名が参加し、管内の仲間とともに世論高揚に頑張ってまいります。

支部長　臼田

これからの支部啓発事業のお知らせ

詳しくは次号でご案内します。準備、署名活動ほかご協力よろしくお願いします！

2011.2. 5(日)10:00～　農村広場

『ふゆとぴあ北方領土クイズ』

2011.2.13(日)10:10～10:30　尾岱沼白鳥まつり会場

『北方領土返還要求別海町民大会』

2011.2.22(水)～24(金)9：00～17：00　役場ロビー

『北方領土パネル展』

これからの後継者事業

12/17　後継者語り部事業　中標津町　*上月さん（発表者）ほか

2/11　後継者研修会　札幌市

関係者との意見交換・懇談会の出席状況

6/26　衆議院特別委員会との懇談会　根室市　臼田支部長

9/ 2　道議会北方領土対策特別委員会との意見交換会　中標津町　臼田支部長、白崎部長

10/ 6　岡野ロシア課長との意見交換　中標津町　臼田支部長

10/14　伊東よしたか衆議院議員と青連協の懇談会　中標津町　白崎部長、池田副部長

11/ 3　川端内閣府特命担当大臣との懇談会　根室市　臼田支部長

*伊東議員との懇談では、後継者の厳しい現状、返還運動や議員との意見交換のあり方、航空路の整備、新造船利用の青少年学習、海洋資源の共同開発等意見･質疑を行ないました。

親睦パークゴルフ大会開催 7/10　尾岱沼

今年も７月10日親睦パークゴルフ大会を開催。参加者は２２名と若干少なく残念でしたが家族も含め親睦を深めました。支部長杯は村山さん（109点）、準優勝は桜田さん（109＋ハンデ３点）へ。

北方領土青少年セミナー　7／24　羅臼町

今年も青連協主管により開催、たくさんの小中学生が熱心に学習しました。

四島返還ちょうちん設置　8月上旬

中春別市街

四島(しま)返還と名入れをした提灯は、尾岱沼連町、西春別駅前連町、別海連町、中春別町内会のご協力を得、お盆時期に３００個を設置し、四島返還要求をアピールしました。今後イベントなどに活用してもらう予定です。

別海市街

北方領土返還要求署名啓発活動を実施

6/26(日)えびまつり会場、

10/ 2(日)パイロットマラソン会場、

10/10(日)あきあじまつり会場

パイロットマラソンには有志が集まり初めて行ないました。

あきあじまつり会場

パイロットマラソン会場

えびまつり会場

8/24～26北方領土返還要求キャラバン隊派遣「北海道東北国民大会」へ

今年度の後継者キャラバン隊には、白崎青年部長、荒木、五百木青年部理事の３名を派遣。26名の後継者隊員は、稚内市を出発点に手塩市、羽幌町、士別市、名寄市で表敬訪問・啓発活動後、札幌市「北方領土返還要求北海道東北国民大会」で決意表明を行いました。道北はサハリンに隣接しているせいか、報告では、これまで４回の表敬訪問の中でも心のこもった対応で激励、返還運動に理解を示していただきました。

北方領土問題現地青年の集い開催　11/5　別海郊楽苑

今年の「現地青年の集い」は当支部青年部が準備を担い郊楽苑で開催。公務多忙のなか水沼町長にもご臨席いただき、後継者４７名を含む関係者５４名が集いました。

「ロシア派遣報告」

臼田支部長が訪問の概要、感想を述べ、釧路支部青年部長の堀江さんが精力的に新聞社等の報道機関やロシア外務省幹部と面談したようすを次のように報告しました。

事前のロシア情勢についてのブリーフによると、中流層や知識層の流出により人口が半減していること、民族闘争も依然根深くある。

「モスコフスキー・コムソモーレツ紙」は東日本大震災直後、「千島を返そう」とのコラム記事を掲載。100万部以上発行する大衆紙で以前より「大統領への手紙」というコラム欄でクレムリン批判もしている。現島民の意見はクレムリンには反映されない、国民の９０％が北方領土問題を知らないと話した。「アガニューク紙」も創刊120年の歴史をもつハイクォリティな雑誌だということだが、同じく国民は島を占拠した事実は知らない。

国家院議員や研究所長からは、この問題はソ連のせいでも日本のせいでもない、経済交流が大事、北特法の改正（北方領土をわが国固有の領土と明記、H22年施行）を批判するという意見もあった。

最終日に面談したラディポフ・ロシア外務省アジア太平洋地域諸国局次長からは「返還団体はラディカル（過激的･急進的）だ、そんな団体とは対話しない。ロシアとしても日本の言動に反応してしまう。穏やかな雰囲気の中で話し合わなければならない。経済交流を進め政治判断するべき」と話した。

ロシア政府の対応は、質問や聞き返すことができない一方的な対応で非常に厳しかった一方、ロシアのマスコミについてはかなり開かれた印象をうけたと感想を述べ、それを端的に表しているのは、ロシ

アのジャーナリストは「不法占拠」という言葉を使い、外務省幹部らは「この問題の解決」という言葉を用いることだったといい、ロシア世論に働きかけることが重要ではないかと締めくくられました。

「講演」では、根室地域本部北方領土対策室長谷内氏より返還運動に係わった経緯など二世の視点も含めてお話しいただきました。引き続き行なった「北方領土問題座談会」は根室支部青年部の濱屋さんを座長に、派遣報告や講演を踏まえ、広く疑問や問題点について話し合いました。

待望の新造船「えとぴりか」進水式　11/11　広島県

元島民待望の新造船「えとぴりか」（全長66.5㍍、1150㌧、定員84名）の進水式が、11/11広島で行なわれました。新造船は車椅子専用の乗降リフトも備えています。

北方領土サミット　別海中央中　11/22

今年も「北方領土サミット」(領対根室地域本部主催)が別海中央中学校で始まり、11/22白崎部長が四島の歴史、母の島での暮しから強制退去まで語り、領土の重要さを訴えました。１月下旬の管内サミットを目指し、中学生が領土問題解決を考えます。

新聞報道から

★ロシア軍が日本周辺で挑発を繰り返している。9/8爆撃機２機が日本を一周半し、北海道の領空隣接空域で空中給油も行なった。翌９日には巡洋艦など２４隻が宗谷海峡を通過し対潜水艦戦訓練を開始、翌10日哨戒機が10回にわたり北海道周辺領空に接近。自衛隊は緊急発進（スクランブル）し空中給油の瞬間も撮影した。極東の大規模演習は、10年６～７月択捉島にも1500人を動員し、常態化をうかがわせる。北方進出ももくろむ中国を牽制し、日本に中露との二正面作戦を強い、北方領土問題で譲歩を引き出すカードとして利用する思惑か？日本政府は明確な抗議はしていない。（9/18産経新聞）

★玄葉光一郎外相は11月11日、ラブロフ・ロ外相とハワイで会談し、北方領土問題で「両国間の合意事項や法と正義の原則に基づき実質的な議論をしたい」と述べ交渉再開を求めた。ラ氏は早期訪日を示し「訪日の際に議論したい」と述べた。ラ氏は日露原子力協定の発効に向け早期の国会承認を要請。9月の日本周辺空域周回問題を念頭に「日本を刺激する意図はない」と説明。玄葉氏は防衛交流強化を呼びかけ、ラ氏も緊密な関係を築きたいと応じた。極東・シベリアにおける資源開発について官民による協力促進と、来秋のＡＰＥＣ首脳会議成功に向けた連携強化で一致した。（11/12読売新聞）

★11/9北海道とロシア国境警備隊の洋上会談で、道は、国後島で行なっている古い爆薬の処理について、ロ側が心配ないと説明したと明らかにした。根室地方では4月以降空振や衝撃音が続いており外務省がやめるよう要請、年末までに終えると答えている。（11/10読売新聞）

北方四島の現状～公開資料

外務省ロシア課提供の北方領土に関する公開情報（ロシア側統計、内外報道）の一部を紹介します。

〔四島の人口〕

ロシア側のいう『南クリル地区』（国後、色丹）の人口は9,502人、『クリル地区』（択捉）の人口は7,358人（2010.10月時点）で、2005年から450人減少した人口が、2010年一年間で514人増に転じている。国後・色丹が687人減に対し、択捉が1,201人増で、択捉では男性が女性を2,098人も上回っている。（サハリン州政府ＨＰ2010.10.14データ、内閣府北方対策本部22年度資料、『サフコム通信2011.4.26』、『赤い灯台2011.5.6』、比較は推進員）

〔国後島及び色丹島における第三国労働者の雇用〕

現在、国後島及び色丹島に、旧ＣＩＳ諸国（ウクライナ、キルギスタン、アゼルバイジャン、カザフスタン、トルクメニスタン、モルドヴァ、ウズベキスタン、タジキスタン）からの労働者がいる。ベッチニコフ・有限会社「トルード・サハリン」社「ユジノクリリスク」支店長は、「本年に同社の事業に計40名の中国人労働者が勤務する」と発言。現在、国後島・古釜布の８世帯用アパート２棟の建設に30名の中国人労働者が従事。有限会社「リゴ・デザイン」社は、北朝鮮からの労働者を雇い、同町の聖堂の建設作業に当たらせている。-略-（『国境にて』紙2011.7.30、9.14）※この夏、フジテレビ報道番組でもその実態が放映されました（Ａ）。

あとがき

★月強調月間の啓発事業については改めてご案内します。皆さんのご参加ご協力をお願いいたします。

★後継者があらたに5名入会されました。会員数は元島民91名、後継者87名、賛助3名、計181名です。

★「北方四島の現状（報道ベース）」、「衆議院沖縄北方特別委員会速記録」をご欄になりたい方は推進員へご連絡ください。（A）